

あとがき

本書は、著者が属する公益財団法人ライフサイエンス振興財団の業務の一環として作成したものである。同財団は、日本国内のライフサイエンスに関わる研究者に対する研究助成を中心業務としているが、ライフサイエンスを含む科学技術全般についての調査も実施しており、本書はその業務として実施した。

筆者は、国立研究開発法人科学技術振興機構アジア・太平洋総合研究センター（APRC）サイエンスポータルアジアパシフィック事務局が編集しているHP「Science Portal China」に「林幸秀の中国科学技術群像」のコーナーを設けて貰い、2020年12月より大体週一度のペースでコーナーに記事を投稿してきた。本書は、その投稿を整理し、さらに内容を一部追加してまとめたものである。コーナー作成に尽力いただいた沖村憲樹と米山春子両氏に感謝の意を表したい。投稿原稿を丁寧に校正してくれたのは石川晶氏であり深く感謝したい。

また、科学技術振興機構北京事務所の茶山秀一所長、李清副所長、申英姫元所員、元科学技術振興機構研究開発戦略センター周少丹氏にも、本書籍に対して貴重なご意見をいただいた。これらの方々に深く感謝申し上げたい。

2022年3月
国際科学技術アナリスト
林幸秀

著者紹介

林 幸秀 (はやし ゆきひで)

公益財団法人ライフサイエンス振興財団理事長兼上席研究フェロー。国際科学技術アナリスト。

1973年東京大学大学院工学系研究科修士課程原子力工学専攻卒。文部科学省科学技術・学術政策局長、内閣府政策統括官（科学技術政策担当）、文部科学審議官、宇宙航空研究開発機構（JAXA）副理事長などを経て、2017年より現職。

著書に『科学技術大国中国～有人宇宙飛行から、原子力、iPS細胞まで』、『北京大学と清華大学～歴史、現況、学生生活、優れた点と課題』、『中国科学院～世界最大の科学技術機関の全容、優れた点と課題』、『中国の宇宙開発～中国は米国やロシアにどの程度近づいたか』、『中国のライフサイエンス研究』、『中国における科学技術の歴史的変遷～清朝末から現代までの科学技術政策の流れを中心として』など。